

千川中学校だより

3月号 平成29年3月10日(金)

社会性の獲得を目指して

千川中学校長 紅床 直也

あと1ヶ月で、それぞれの学年の進級・進学となります。3月2日に都立高校の合格発表があり、3年生も一区切りというところでしょうか、まだ進路が決まっていない仲間もいます。全員の進路が確定するまで、そして感動的な卒業式にするために、中学校生活に残された日々を大切にしてほしいと思います。下級生は上級生の背中を見ています。最後まで模範となる最上級生であってください。一方、1、2年生は進級して新入生を迎える立場となります。既に学年の先生方は来年度の準備に入っています。先輩になる心の準備をお願いします。

さて、本校は「ひじき運動」をはじめ、生徒の自主自律を重んじる学校です。今年度も、例年以上に授業規律の厳正を図ると同時に、生徒会を中心に「あいさつ運動」を展開しています。一般的に中学生になると自我が発達し、素直になれないという心理状況になります。本校の生徒は他校と比べても、挨拶をする方だとは思いますが、地域からは小学生の時は良く挨拶してくれたのに、中学校に入ったとたんなぜかしてくれなくなって淋しいという声も聞きます。

例えば、部活動や地域のクラブ活動では、技量の獲得以上に礼儀やマナーを重んじることが大半です。大会に出て結果を残す以前に人間性を磨くのです。その中には、相手に対する思いやりや、他人のせいにはしない自制心や、たゆまぬ努力を続けるための克己心などがあります。人間性が磨かれる過程や結果の発露の一つが、「あいさつ」なのです。

将来、部活動等で身に付けた技量を生かしてその道のプロになるのはごく一部の選ばれた方々です。しかし、成人して社会に出ていくと、どんな職業でも常に人間性が問われます。たとえ学歴があつたとしても、人間性・社会性が優れていないと認められない世の中になっています。「あいさつ」が自然にできるかできないかは極めて重要です。

大きくとらえれば、教育は国や世界を支える人材を創っていく営みです。それは将来、家庭に入る生徒にも同じことが言えます。同じ職場の同僚、道端ですれ違う近所の方々にあいさつ一つできないのでは、今まで何を学んできたのか疑われてしまいます。

生まれたての赤ちゃんは家族に抱かれるという安心感の中で、少しずつ自分自身の感覚の伝え方を学んでいきます。早い遅いはありますが、最初は泣くばかりだったのが、喃語から始まり、一語文・二語文を経て、少しずつ会話ができるようになります。言葉が十分に獲得できていない段階でも、指さしなどの身振り手振りや、笑ったり怒ったりの表情で感情を伝えます。

人間が社会的な動物である以上、外の人や世界とのコミュニケーションの入口としてあいさつができるかできないかは、その人の能力を測る上で重要です。協力し合えると確信できる関係から全てが始まります。本校には、携帯端末(スマートフォン・携帯電話)を使用する上での自主ルールがあります。コミュニケーションツールとしての機器は、その使い方によっては人間関係を良くも悪くもします。今年度、東京都教育委員会は学校ではなく、家庭でのルール作りを呼びかけています。学校だより7月号にも記させていただきましたが、これができているか、できていないかは、子どもの健全育成のために極めて重要です。まだのご家庭は、この春休み等を利用して是非話し合ってみてください。

最後になりましたが、この1年間の保護者・地域の皆さまの本校へのご協力に心から感謝申し上げます。来年度は創立70周年記念式典挙行・豊島区研究推進校発表など節目の年となります。変わらずのご指導・ご鞭撻を宜しくお願いします。

